情報提供資料

2019年6月3日

Asia Watch

アジアの海外旅行需要　パート2
成長ストーリーは続く

※当資料は「アジアリサーチセンター」のレポートを基に作成しています。

要約

- **旅行者数は増加基調が継続**
  アジア各国・地域を訪問する旅行者数が着実に増加しています。中でもアジア各国・地域から日本を訪れる観光客の増加が突出しており、中国をはじめ、韓国、台湾からの旅行者の増加が顕著です。この他、タイ、ベトナム、インドネシアなどアセアン諸国への旅行者も増加傾向にあります。

- **潜在的な増加余地はまだまだ大きい**
  観光地や街にあふれる中国人観光客の姿は、日本においても今や見慣れた風景ですが、中国人の海外出国件数はまだ総人口の5%強（香港、マカオ向けを除くベース）、パスポート保有者数は総人口の約12%にとどまります。さらに発展途上にある人口大国のインドネシア、インドに至ってはこの水準を大きく下回ります。今後のアジア各国・地域の経済発展に応じて海外旅行需要の拡大が期待されます。

- **新たな体験や価値観を重視するミレニアル世代が海外旅行需要を牽引**
  1980年代、1990年代生まれのいわゆるミレニアル世代は海外旅行に非常に積極的です。彼らは将来に対して楽観的で、生活の質を重視し、未知なる体験が可能な海外旅行にお金を出し惜しみしません。中国でもミレニアル世代が海外旅行需要の牽引役となっています。まだ時間はかかるでしょうが、経済発展に応じてインドネシアやインドでも同様の状況が起こると予想されます。

※上記はイメージです。

アジアの海外旅行需要（パート1）のレポートは以下をご参照願います。
https://www.smam-jp.com/documents/www/market/report/arc/irregular_china/20190107_asiaresearchcenter_es1k.pdf

この資料の巻末ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。
上記は当資料作成基準日現在のものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。将来予告なく変更される場合があります。

三井住友DSアセットマネジメント

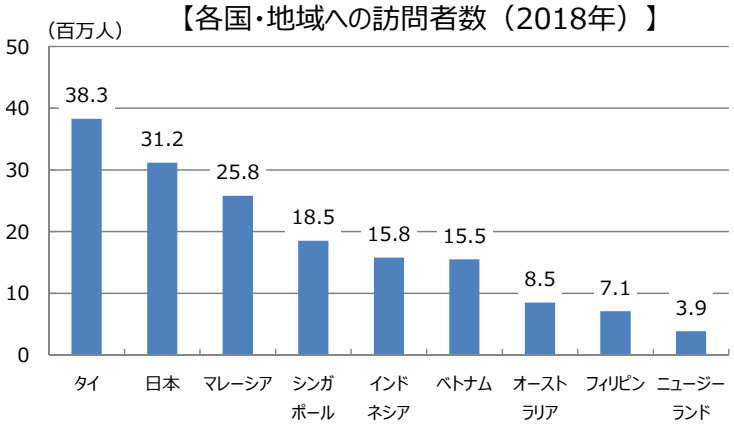
情報提供資料

＜アジア各国・地域への訪問者数は増加基調＞

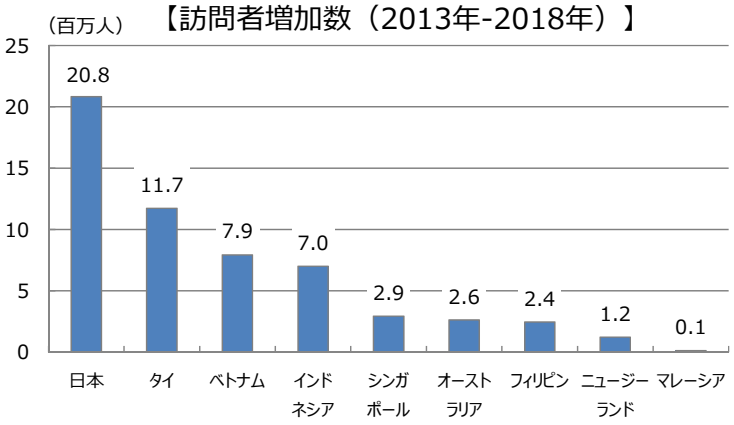
日本とアセアン諸国の増加が顕著

2018年に日本を訪れた外国人数は3,120万人となり、5年前と比べると実に3倍に増加しました（2013年は1,040万人）。訪日旅行客が及ぼす日本経済へのプラスの影響は今や無視できないものとなっています。同様に、タイ、ベトナム、インドネシアなどアセアン諸国を訪れる外国人数もこの5年間で大きく増加しました（マレーシアを除く）。訪問者の絶対数では大きくないオーストラリア、ニュージーランドも、中国や米国からの旅行者数増加でインドネシアやタイと同程度の伸び率となっています。

【各国・地域への訪問者数（2018年）】



【訪問者増加数（2013年-2018年）】

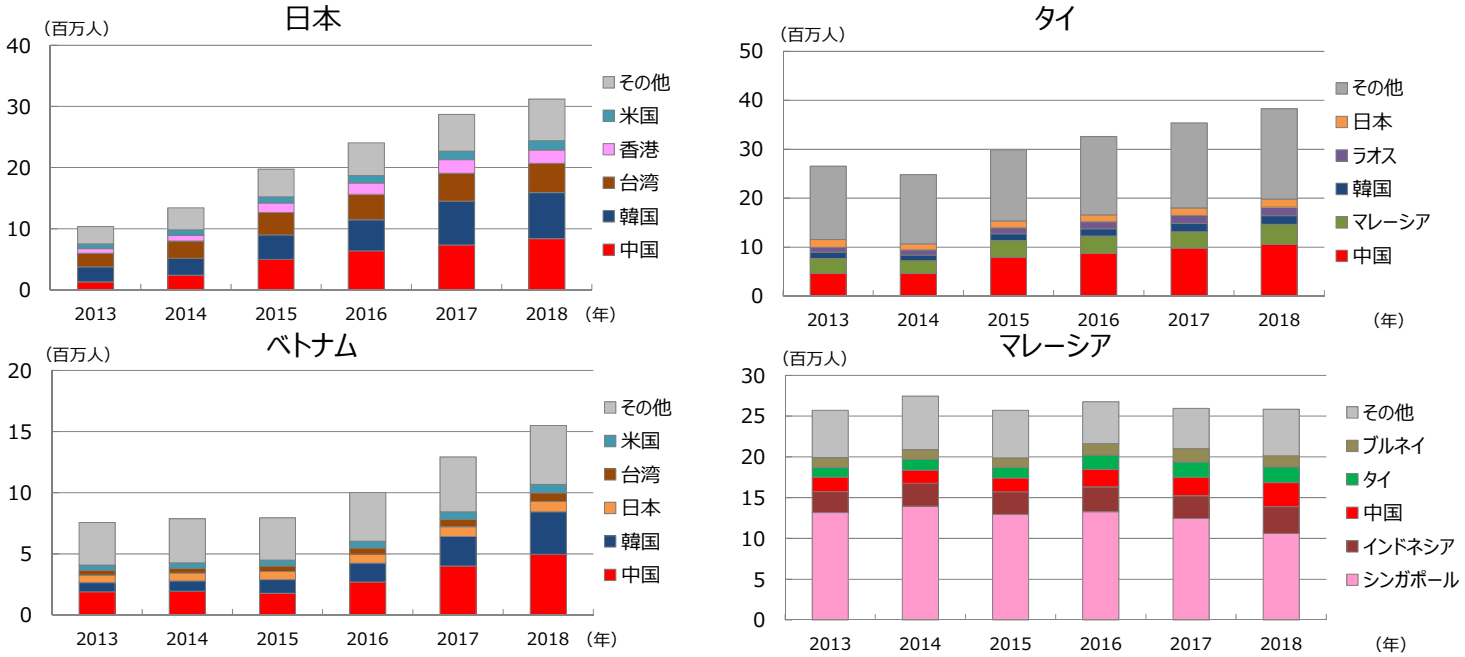


（出所）各国観光省庁、世界銀行のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

中国人旅行者が牽引役

訪日旅行客の内訳を見ると、中国に加え、韓国、台湾からの訪問者が増加の牽引役となっています。観光立国のタイでは訪問者の国籍が分散していますが、ここでも中国が第一位です。2014年はクーデターの影響で一時的に落ち込みましたが、豊富な観光資源を梃子にすぐに回復に転じています。ベトナムでは中国人の他に、韓国人旅行者が大幅に増加しています。サムスンを始めとする韓国企業の進出拡大も影響しているとみられますが、代表的なリゾート地であるダナン、ニャチャンへの直行便の増加も寄与しているものと思われます。一方、マレーシアはアセアンの中でタイに続く訪問者数となっていますが、過去数年間の政治的、経済的に不安定な状況から敬遠され、ウエイトが大きいシンガポールからの訪問者を含めその数はほとんど増加していません。

【主要国・地域の国別海外旅行者数】



（出所）各国観光省庁、世界銀行のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

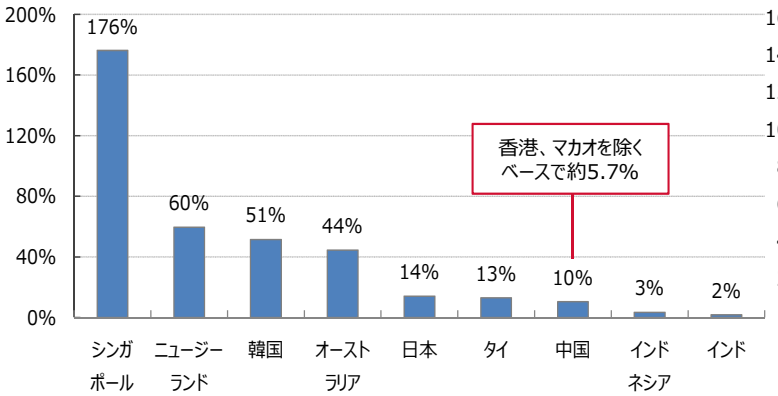
この資料の巻末ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。
上記は当資料作成基準日現在のものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。将来予告なく変更される場合があります。
三井住友DSアセットマネジメント

＜潜在的な増加余地はまだまだ大きい＞

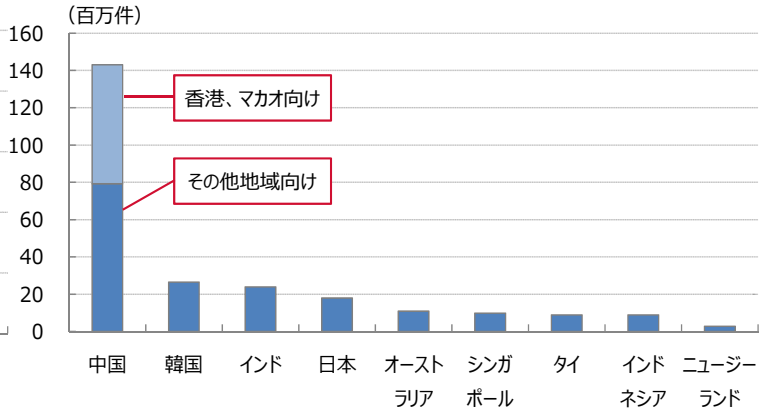
中国の海外旅行経験者はまだ一部に過ぎない

中国人の海外出国件数は、特別行政区の香港とマカオ向けを除いたベースで約7,900万件で、世界最大です（両地域込みだと約1.4億件）。しかし、総人口に対する比率は約5.7%にとどまります。中国の発展段階より後方に位置する人口大国のインドネシア、インドの比率はそれぞれ約3.4%、約1.8%とさらに低い水準です。また中国のパスポート所有者は総人口の約12%で、日本の約24%と比較するとまだ半分にとどまります（いずれも2018年数値）。将来の潜在的な需要はまだまだ大きいと言えそうです。

【海外出国件数の総人口比率（2017年）】



【海外出国件数（2017年）】



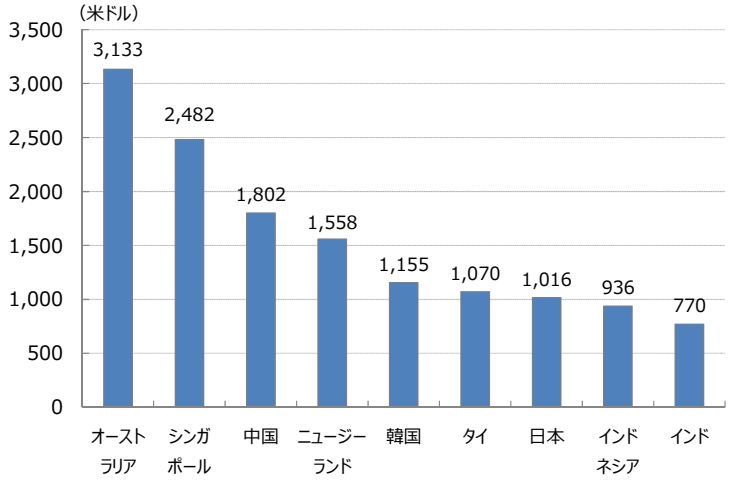
（出所）世界銀行のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

＜観光支出と出国数＞

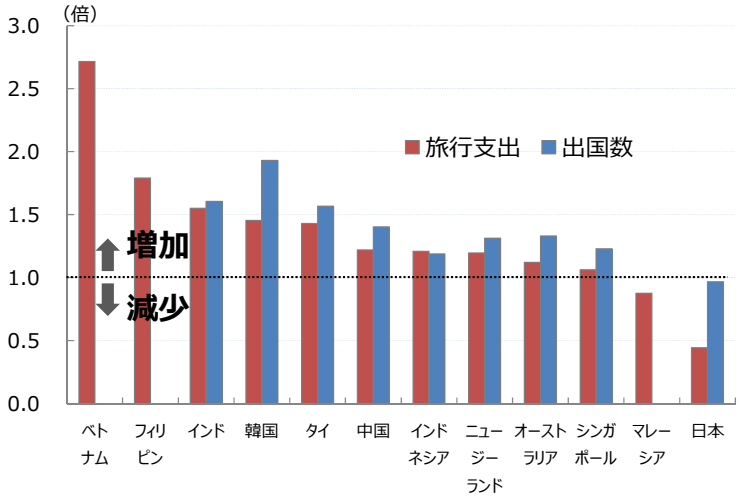
爆買い一巡後も中国人の旅行支出は増加基調

過去4-5年を見ると総じて旅行支出の伸び率が出国者数の伸び率を下回っていますが、旅行代金の抑制、旅行者の利便性の向上が旅行件数の増加に結びついているとも言えそうです。中国人旅行客のいわゆる爆買いの一巡に加え、格安航空会社（LCC）の台頭や、ホテルのネット予約など旅行業界の競争激化により旅行代金の伸びが抑えられている側面がありそうです。中国人旅行者全体の合計支出額は突出して1位ですが、一人当たり支出額で見ても、オーストラリア、シンガポールに次ぐ水準に位置し、その経済的影響力の大きさが理解できます。なお日本の支出額減少はこの期間の円安の影響が大きかったと推測されます。

【訪問あたりの支出額（2017年）】



【旅行支出と出国者数の増減（2012年～2017年）】



（注1）中国の数値は香港、マカオ向けを含む。
（注2）中国の旅行支出は外国為替国家管理局の旅行収支から計算。データ基準の変更に伴う制約のため、出国数とともに2014年から2018年を対象とした。
（注3）ベトナム、フィリピン、マレーシアの出国数データは入手不能。
（出所）世界銀行のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

この資料の巻末ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。
上記は当資料作成基準日現在のものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。将来予告なく変更される場合があります。
三井住友DSアセットマネジメント

<ミレニアル世代の旅行需要>

1980年代生まれ以降の世代が海外旅行需要の牽引役

ミレニアル世代とは1980年代、1990年代に生まれた世代を指し、中国総人口の約30%を占めます。1980年代生まれの30歳代は所得が向上するライフサイクルに当たります。先進国で富裕層と言えばもっと上の世代ですが、中国のような新興国ではこの世代が親の世代より裕福であるケースが多いようです。この世代は海外旅行のような未知の体験を強く求め、グループツアーではなく、個人旅行を好む傾向があります。インドやインドネシアにおいてもミレニアル世代は総人口の30%以上を占め、更に20歳未満世代の構成比も厚く、海外旅行需要の予備軍と考えることができます。

	ミレニアル世代（20-39歳）人口構成比	人口（億人）	20歳未満の人口構成比	人口（億人）
中国	**29.9%**	4.2	**17.3%**	2.4
インド	**32.7%**	4.4	**27.8%**	3.7
インドネシア	**32.0%**	0.8	**27.0%**	0.7

（出所）世界銀行、Chinese Int'l Travel Monitor report 2018 のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

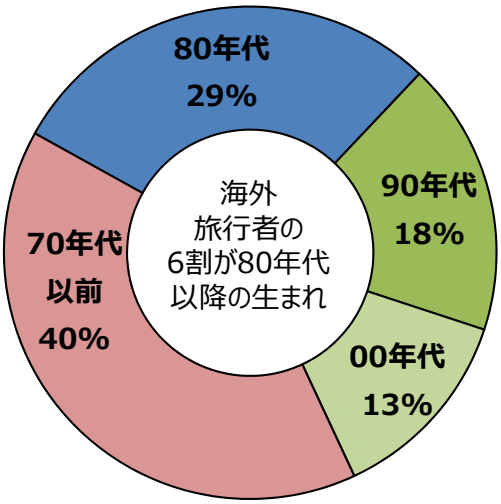
【ミレニアル世代が考える旅行先の選択基準】

1.	旅行先の美しさ、ユニークさ
2.	ビザ取得の容易さ
3.	安全性
4.	地元民の親しみやすさ
5.	旅行費用の水準（割高でないこと）
6.	旅行計画を立てやすい
7.	ハイ・シーズン期の制約が少ない
8.	友人・親類からの推薦
9.	旅行先の人気度
10.	旅行目的に合っている

中国のミレニアル世代の旅行支出は平均を上回る

中国の海外旅行件数の約60%が1980年代以降に生まれた世代によるものです（ミレニアル世代に限定すると50%弱）。2018年のChinese Int'l Travel Monitor reportによると、過去一年間に支出した旅行費用はその前の一年間から40%増加しています。これを世代別にみると、80年代生まれは+50%、90年代生まれは+73%支出を増やしており、ミレニアル世代が旅行支出に積極的であることがわかります。実際にこの世代がホテル料金に費やす金額は平均を上回っています。さらに海外旅行が習慣化し、アジアの中でも新しい旅行先、より遠方の旅行を計画する傾向があるため、旅行支出の増加と、今後の海外旅行の多様化が進む可能性がありそうです。

【出生年別旅行者数（2018年）】



【過去一年間の旅行費用増加率（前年比）】

90年代生まれ	73%
80年代生まれ	50%
全世代平均	40%

【ホテル料金への支払額】

90年代生まれ	183米ドル
80年代生まれ	172米ドル
全世代平均	161米ドル

【人気旅行先トップ10】

1.	タイ
2.	日本
3.	ベトナム
4.	シンガポール
5.	インドネシア
6.	マレーシア
7.	米国
8.	カンボジア
9.	ロシア
10.	フィリピン

【旅行先予約の伸び率（前年比）】

1.	ミャンマー	257%
2.	ボスニア	239%
3.	セルビア	218%
4.	ラオス	207%
5.	アルゼンチン	166%
6.	スペイン	165%
7.	カンボジア	155%
8.	メキシコ	148%
9.	ブラジル	129%
10.	チェコ	101%

（出所）China Outbound Tourism Report 2018 (Ctrip, China Tourism Academy)、Chinese Int'l Travel Monitor report 2018（Ctripのホテル予約データに基づく分析レポート）のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

この資料の巻末ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。
上記は当資料作成基準日現在のものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。将来予告なく変更される場合があります。

三井住友DSアセットマネジメント

【重要な注意事項】

- 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

上記は当資料作成基準日現在のものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。将来予告なく変更される場合があります。
三井住友DSアセットマネジメント